

白山神社

大阪市の都市景観資源に登録されている白山神社について
宮司の川井邦彦さんにお話を伺いました

白山神社の歴史

祭神は縁結びの女神

閑静な住宅街のなかに佇む白山神社。石川県白山市三宮町にある白山比咩神社を本宮とする全国に3,000社近くある神社の一つで、創建年月は不詳ですが、室町時代の応永年間(1394-1428)の頃までは中浜・鳴野・森の諸村の氏神でした。また、明治5(1872)年までは白山権現と称し親しまれていました。

そして、祭神の白山比咩神(またの名を菊理媛神)は縁結びの神といわれています。「日本書紀にも登場する女神です。イザナギとイザナミが黄泉比良坂で言い争ったときに仲裁したことから、あらゆる人の仲を取りもつ神とされました」と、川井さんから教えていただきました。また、名前にある“くくり”から縁と縁を結ぶとされ、人との縁をはじめ、さまざまな良縁を祈願しに多くの参拝者が訪れるそうです。

戦国時代の白山神社

歴史の舞台にも登場する白山神社。天正4(1576)年に織田信長と石山本願寺との交戦(石山合戦)で社殿を焼失しますが、慶長8(1603)年に豊臣秀頼により再建されます。慶長19(1614)年の大坂冬の陣では、徳川軍の本多忠朝が本陣を置きます。そのときに、境内にあるイチョウに登り、大坂城の戦況を偵察していたと伝わっています。

「お隣の正圓寺の寺嶋住職さんにお聞きした話ですが、石山合戦の際には、本願寺に縁の深い寺からの食料などを近くの川を使い運んだそうです」と、歴史の一面を話す川井さん。大坂冬の陣では、兵火により再び焼失しますが再建され、その後も改築・修繕が繰り返され現在に至っています。



▲白山神社の正面



▲拝殿より本殿を望む

ここも注目ポイント!

彫刻師・森丹溪の彫刻飾り

拝殿正面上の部分には、鳳凰の彫刻装飾があります。

昭和2(1927)年8月に拝殿を改築した際、社寺や木像の彫刻等で名高い彫刻師・森丹溪が手がけたものです。細部までこだわった彫りは躍動感を感じさせます。



▲鳳凰の彫刻

ここに名前が記されています!



▲氏子による奉土棟板。裏には「彫刻士 森丹溪」の名が記されています

村相撲の番付表

現在の古市2丁目にかつて大阪大国技館があった影響か、白山神社に村相撲の番付表が残されています。番付表には、地域の方のご先祖の名前が記されており、白山神社界隈でも村相撲が盛んに行われていたことが伝わってきます。



▲当時のままの番付表

イチョウの大樹は天然記念物

境内には、昭和24(1949)年に大阪府指定天然記念物となったイチョウ(雄株)があります。樹齢は不明ですが、境内を覆い尽くすほどの枝振りはみごとで、黄色に色づいた大樹が秋の空に向かってそびえたつ姿に思わず圧倒されます。訪れた区民の方に何うと「このイチョウを見ると元気がもらえます」と話してくれました。紅葉の季節には、色づいた落ち葉が敷きつめられ、黄色の絨毯になります。拝殿の銅葺き屋根と大樹が一体となり美しい景観を見せてくれます。

「イチョウは『結びの木』として縁結びの御神木と仰がれています」と川井さんが教えてくれました。

また、同じく境内にはイチョウ(雌株)があり、毎年秋には銀杏を実らせているそうです。



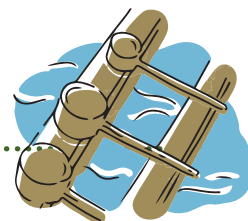
宮司 川井邦彦さん▶

秋に色づくイチョウを見にお越しください

皆さんの憩いの場所となるように

朝から訪れる人も多く、毎朝参拝に来るという人や、境内に入ると空気が違い気分も変わるという人もいます。

「いつまでも多くの人に足を運んでいただき、地域に親しまれる憩いの場としてあり続けたい」と、川井さんはほほ笑みます。地域の方に親しまれ、地域を見守る白山神社です。



▲境内を覆い尽くす枝振り



末社拝殿

拝殿の西隣にある末社殿は神明社(権殿)、光徳稲荷神社、齒神社の3つ。なかでも神明社(権殿)は境内模様替えの際に移築された元の本殿です。

名前が書かれた板・神額の裏には、墓股(カエルが股を開いたように似ていることに由来)の彫刻がほどこされています。



▲もとは本殿であった神明社(権殿)

案内板

白山神社の由緒や歴史がわかります。また、英語版の由緒略記もあります。



▶ 白山神社 拝観時間 境内自由 社務所受付8:00~17:00 (年始は変更となります)

ところ 中浜2-3-15 問合せ ☎6961-0481 ☎6961-3845

※写真は、9月に撮影したものです。